

総務省関東総合通信局・APPLIC 共催 地域課題解決に向けたワークショップ
～自治体版ビジネスモデルキャンパスの作り方～

≪2019年7月19日(金)≫ (定員:30名) 総務省関東総合通信局会議室(東京都千代田区九段南1-2-1 九段第3合同庁舎21階)		
12:30～ 12:35	主催者挨拶 (5分)	総務省 関東総合通信局 局長 黒瀬 泰平
12:35～ 17:10	オリエンテーション (35分)	I. 分析手法の説明・練習問題 (1)本日のセミナーの流れとゴールの設定 ・(一社)ビジネスモデルイノベーション協会 代表理事 シミックホールディングス(株)人材育成センター 多摩大学医療・介護ソリューション研究所シニアフェロー 山本 伸 氏 (2)なぜイノベーションが必要なのか:練習問題 ・(一社)ビジネスモデルイノベーション協会 理事 NTTアドバンステクノロジ(株)営業推進部門 部門長 三宅 泰世 氏
	ワークショップ (240分)	II. フリクションマップの作成・アイデア出し II-1 》自治体の課題を明らかにする、まちの方針と方向性を合わせる (1)グループごとに課題明確化(フリクションマップの作成) (2)グループ毎に「制約条件」を確認 (3)各グループ発表 ・ファシリテーター 三宅 泰世 氏
		II-2 》課題解決に向けたアイデアを大量に生み出す (1)フリクションマップを見ながら全員でアイデア創出 (2)アイデアの絞り込み ・ファシリテーター 三宅 泰世 氏
		III. ビジネスモデルキャンパスの作成・分析 III-1 》ビジネスモデルを作ってみよう (1)ビジネスモデルキャンパスを作成 (2)ビジネスモデルキャンパスを用いた初期モデルを創作 (3)新たなモデルの発表 ・ファシリテーター 山本 伸 氏
		III-2 》ビジネスモデルづくり後のプロセスの概要を知る ・ファシリテーター 山本 伸 氏
17:10～ 17:15	総評(5分)	APPLIC ICT利活用ワーキング主査 総務省地域情報化アドバイザー 茨城大学 教授 後藤 玲子 氏
17:15～ 17:25	総務省の支援策 について(10分)	総務省 関東総合通信局 情報通信部情報通信振興課長 小杉 裕二
17:25～ 17:30	アンケート実施 (5分)	
17:30	閉会挨拶	APPLIC 理事長 利根川 一
17:45～ 19:00	情報交流会	

共 催:総務省関東総合通信局、一般財団法人全国地域情報化推進協会(APPLIC)

協 力:一般社団法人ビジネスモデルイノベーション協会

対象者:関東管内の自治体職員及び APPLIC 会員

「地域課題解決に向けたワークショップ」の概要①

- ・民間企業がビジネスモデルの分析や新しいアイデアによる課題解決等(イノベーション創出)のため、既に実践されている手法を用います(初心者向けのプログラムです)。
- ・今までの自治体の分析ではできなかったような、課題や現状の掘り起こしが期待できます。
- ・このような先進的な手法を自治体の地域課題に用いるのは新しい試み※です。

※(一社)ビジネスモデルイノベーション協会が民間向けに実施しているワークショップの手法を、昨年からAPPLICが自治体向けに実施しているもの。

■当日の流れ

I. 分析手法の説明・練習問題

・ビジネスモデルキャンパスの作成練習等を行います。

II. フリクションマップの作成・アイデア出し



(地域のニーズや課題を見える化)



(解決アイデアを量産する)

- ・地域の課題をフリクションマップ(Forth Innovation Methodの手法の1つ)を使って見える化します。
- ・各課題(テーブル毎に設定)に対して、全ての参加者が課題解決のアイデアを量産します(質より量を求めます)。
- ・多数のアイデアの中から、現実的なもの、難しいけど面白いものなどを抽出して、発表します。また、隣の課題に対するアイデアの中からも抽出することで、新たな発見を目指します。

III. ビジネスモデルキャンパスの作成・分析

The Business Model Canvas		顧客との関係	顧客セグメント
パートナー	主要活動	顧客との関係	顧客セグメント
漁業販売店	ホームページ制作 24H265艇庫に 遊漁券を購入可 漁位への営業活動	アプリダウンロード セルフサービス	釣り人
ソース	災害時の情報提供 釣り人の安否確保 数少ない社員	チャット 釣り雑誌 フィッシングショー ホームページ スマホアプリ	漁協 地域住民
コスト構造	労務費	システム販売売上 保守運用料	券販売 手数料15%

(9の視点で現状分析)



(テーブル毎or2人一組で実施)

- ・多数の課題解決アイデアの中から実現可能性の高いものを選び、「Business Model Canvas」の手法を用いて分析します。
- ・分析は、地域のリソース・顧客(市民)・パートナー・コスト構造など、9つの視点で行います。
- ・地域の現状を踏まえた分析をすることで、効果的・持続可能なモデル(民間でいうところのビジネスモデル)の発見を目指します。

「地域課題解決に向けたワークショップ」の概要②

■過去2回の体験会での課題(例)

	地域の需要 (Needs)	課題 (Friction)
1	担当課が自発的にデータを活用できるようにしたい	データ活用のメリットを理解してもらい、担当課に喜んでもらう方法が分からない
2	地域の現状をデータで可視化し、まちの将来を庁内で真剣に考えたい	データの示すまちの現状について共通認識を持つことができない
3	Uターンや都会からの転居を増やしたい	まちとしての知名度が低い
4	観光客の消費額を増加したい	リピータとなってもらうためのストーリー・感動が描けない
5	まちで創業したい人を集めたい	どのようにして起業したい人を見つければ良いか分からない
6	図書館にもっと小学校低学年を集めたい	小学生でも目的の本や情報を見つけられるようにする方法が分からない
7	教育をキーに子育て世代の定住を進めたい	親(保護者)のニーズを把握するための調査方法がわからない
8	20歳代～40歳代までのUターンを増やしたい	若者がどこにいて、どのように情報を届ければ良いかわからない

※APPLICにて本年3月及び4月に体験会を開催した際、各グループで設定した課題(フリクションマップ用いて作成)。

■体験会参加者の感想(抜粋)

- ・今まで自治体では使っていない手法。従来通りの方法では問題が解決できない
- ・今までの自治体の分析は、何かに基づいているとは言えない。本日は先進的な手法の紹介を受けれてありがたい。
- ・課題の深堀の仕方が大変勉強になった。
- ・課題や現状を深く掘り下げて考え、どうすればよいかアイデアを得る方法を分かった。
- ・課題と現状を混同している自分に気づいた。また、この過ちを切り分ける方法があることに気づかされた。
- ・知識がなくてもグループワークで意見を言えた。
- ・課題の認識と解決のために、自分で考え話す(発表)することが重要。
- ・フレームワークやテンプレート(ツール)は他課に示す資料として使えそう。
- ・もう一度体験会に参加したい。

■体験会のアンケート結果

Q.もう一度参加したいですか (n=25)

